

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは6月30日(火) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		6月29日現在	7月の予想 (月末値)			
USD	ドル・円 (円)	161.94	153.0	~	165.0	160.0
	日銀利上げ後もドル高圧力衰えず					
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.142	1.12	~	1.18	1.15
	ユーロ・円 (円)	184.97	178.0	~	188.0	184.0
FRBの利上げ観測がユーロの上値を抑えよう						
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.326	1.30	~	1.35	1.32
	ポンド・円 (円)	214.69	210.0	~	217.0	211.2
英ポンドは政局不透明感やドル高圧力を背景に、対ドル、対円で上値の重い展開						
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	111.53	109.0	~	114.0	110.0
	NZドル・円 (円)	91.50	89.0	~	94.0	90.0
豪ドル、NZドルはドル高や中国景気への懸念から、対ドル、対円で上値の重い展開						
株式 相場	日経平均 (円)	69,468	68,000	~	75,000	73,000
	非ハイテク株主導の上昇を展望					
長期 金利	NYダウ (ドル)	52,183	49,000	~	54,000	53,000
	幅広い業種で上昇が見込め、NYダウは最高値更新へ					
長期 金利	日本 (%)	2.640	2.40	~	2.90	2.75
	財政拡張への警戒感が強まる中で、日銀利上げ観測もくすぶり、金利は上昇しやすい					
長期 金利	米国 (%)	4.374	4.20	~	4.60	4.40
	ネルソン・シーゲルモデルによれば、長期金利は変動余地に乏しい					

◆ 今月の注目ポイント

ウォーシュ新体制と日本の財政動向

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
日米金融政策	◎	【ウォーシュFRB新体制】FRBの新議長ウォーシュ氏はタカ派姿勢を鮮明にしており、市場ではインフレ期待の低下とドル高圧力が意識されている。一方、同氏は市場との対話を重視しない姿勢も示しており、7月の議会証言では市場との認識のずれが意識されやすい。経済指標に対する市場の反応も読みづらく、不透明感が残ろう。日本では6月に追加利上げを実施し、次回は10月または12月との見方がコンセンサスとなっているが、物価動向次第では利上げ前倒し観測が高まる可能性もある。
日本財政論議	○	【消費税減税や370兆円の官民投資の行方】「骨太2026」で示される消費税減税や戦略17分野への官民370兆円投資の具体策も焦点となる。特に財源や国債発行計画がどのように示されるか、年末の発行計画でどの年限の国債増発が打ち出されるかは国債市場の最大の関心事となろう。CDSなど信用指標は落ち着いているものの、5年債、20年債入札は低調で需給不安はなお残る。内容次第では長期金利や円相場の変動要因となるため注視したい。

◆ アジア通貨見通し

	6月29日現在	7月の予想 (月末値)			
人民元・円	23.81	23.00	~	24.50	23.50
バーツ・円	4.867	4.75	~	4.95	4.80
ルピア・円	0.907	0.89	~	0.93	0.92

◆ 今月の重要日程

1日(水) 日 日銀短観(6月調査)	23日(木) 欧 ECB理事会(結果発表)
2日(木) 日 10年債入札	24日(金) 日 6月CPI
2日(木) 米 6月雇用統計	27日(月) 米 5年債入札
8日(水) 米 10年債入札	29日(水) 米 FOMC(結果発表)
9日(木) 日 5年債入札	30日(木) 米 4-6月期GDP(速報値)
14日(火) 米 6月CPI	30日(木) 日 植田日銀総裁定例会見

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

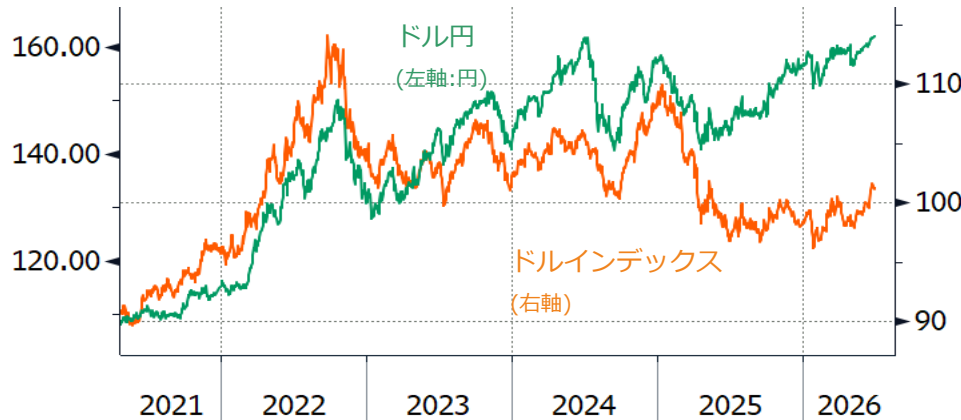
◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



出所：Bloomberg

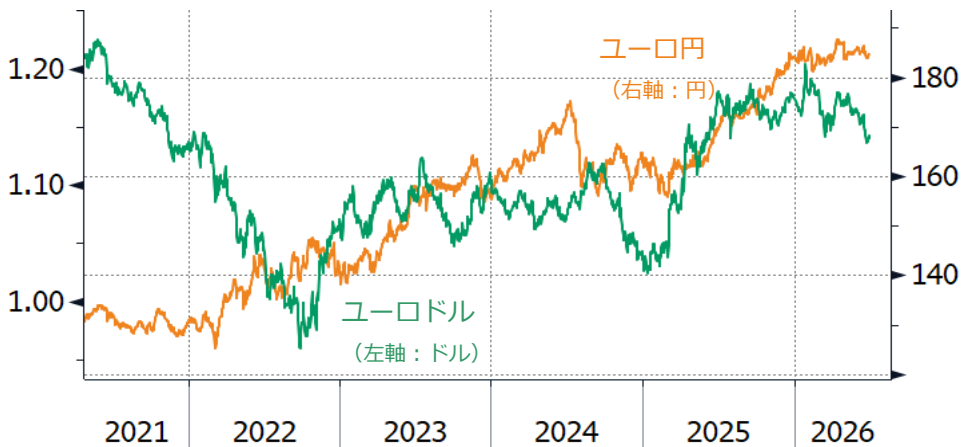
米ドル円 **153.00 – 165.00円**

日銀利上げ後もドル高圧力衰えず

6月のドル円は、159円台半ばで始まったのち、円安基調が継続し、月末にかけては161円台後半まで上昇した。中旬頃は、中東情勢に対する過度な懸念の後退や日銀会合への警戒感から円が買われる場面もあったが、日銀が6月会合で追加利上げを決定した後も、今後の利上げは段階的との見方が広がり、円買いは限定的にとどまった。一方、米国ではインフレの高止まりを背景にFOMC会合はタカ派色が強まり、日米金利差を意識した円売り・ドル買いが優勢となった。もともと、160円台では本邦当局のけん制発言や為替介入への警戒感が相場の上値を抑えた。

7月のドル円は、160円前後を中心とする値動きを想定する。インフレ率の高止まりを背景にFRBの利上げ観測は当面維持される公算が大きく、ドルは引き続き買われやすい。また、24年高値の162円手前が意識されており、この水準を明確に上抜けると大きく円安が進行する可能性もある。一方、足元では投機筋の円ショートポジションが歴史的水準にまで積みあがっていることを鑑みれば、24年高値を超えた先では本邦当局による為替介入が実施される可能性は相応に高いと考えられる。このため、160円前後での推移を中心としながらも、ボラティルな展開となるリスクには留意が必要だろう。

ユ ー ロ



出所：Bloomberg

ユーロドル **1.12 – 1.18ドル**
ユーロ円 **178.00 – 188.00円**

FRBの利上げ観測がユーロの上値を抑えよう

6月のユーロは、対ドル、対円ともに下落する展開となった。対ドルでは1.16ドル台前半で始まったが、米FRBのタカ派化や原油安を受けたECBの追加利上げ観測後退を背景に、月末にかけて1.14ドルを割れる水準までユーロ安が進行した。対円では185円台後半で始まったのち、ユーロドルの下落に連れてユーロ売り・円買いが優勢となり、月末にかけては184円前後まで下落した。

7月のユーロは、対ドル、対円ともに底堅く推移する展開を想定する。中東情勢の緩和によってユーロ圏の景況感回復が見込まれること、ECBがエネルギーインフレを警戒しあと1回の利上げを行うとみられることなどが、ユーロの下値を支えそうだ。一方で、FRBの高金利政策が当面維持されるとの見方がユーロの重しとなるほか、中東情勢についても一直線に緩和に向かうとは考えにくいだろう。対円では、ドル円の高値圏推移を背景に底堅さを維持するとみるが、ユーロ自体が積極的には買われづらいことから、一段の上昇余地は限られよう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

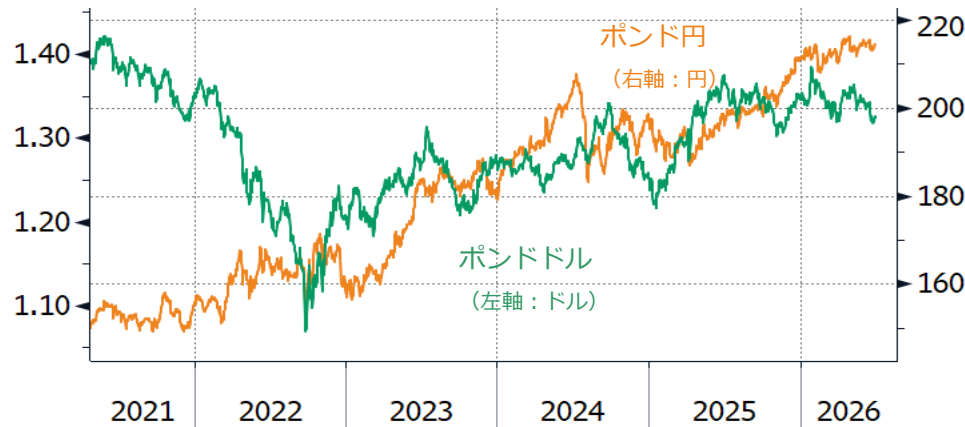
◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



出所：Bloomberg

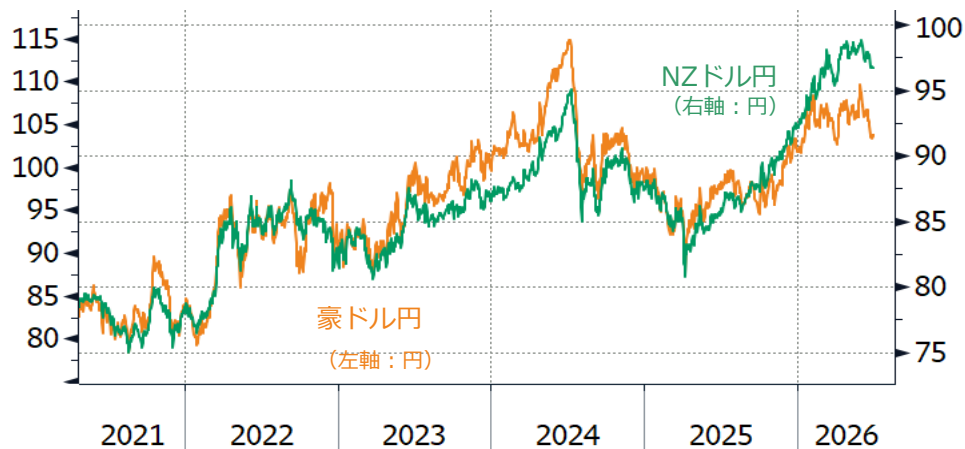
ポンドドル	1.30 – 1.35ドル
ポンド円	210 – 217円

英ポンドは政局不透明感やドル高圧力を背景に、対ドル、対円で上値の重い展開

6月は、対ドル、対円で軟調に推移した。月初から中旬にかけては米経済指標の底堅さを背景に米金利が上昇したことに加え、FOMC後にはウォーシュFRB議長のタカ派姿勢が意識され、ドル高が進行したことからポンドは対ドルで下落。月後半にはスターマー首相の退陣表明を受けて英国政治への不透明感が強まり、ポンド売りが強まった。その後、後継候補として有力視されたバーナム氏が財政規律を重視する姿勢を示し、ポンドは下げ幅を縮小した。対円でも日銀の追加利上げ観測を背景に円が底堅く推移し、ポンド円は上値の重い展開となった。

7月は、対ドル、対円ともに上値の重い展開を予想する。バーナム氏が財政規律を重視する姿勢を示したことで英国財政への過度な警戒感の後退したもの、新政権の経済政策が明らかになるまでは様子見姿勢が続きやすい。一方、FRBのタカ派姿勢によるドル高圧力や、日銀の追加利上げ観測を背景とした円の底堅さがポンドの重しとなり、対ドル、対円とも戻りの鈍い展開を見込む。

豪ドル・NZドル



出所：Bloomberg

豪ドル円	109.00 – 114.00円
NZドル円	89.00 – 94.00円

豪ドル、NZドルはドル高や中国景気への懸念から、対ドル、対円で上値の重い展開

6月は、豪ドル、NZドルともに対ドル、対円で軟調に推移した。月前半は米経済指標の強さを背景に米金利が上昇し、豪ドル、NZドルともに下落。また、中旬の豪中銀会合は政策金利を据え置いたものの、ブロック総裁は追加利上げの可能性を排除しない姿勢を示した。しかし、市場ではドル高の影響が勝り、豪ドルの下支えとはならなかった。その後も米FOMCを受けてウォーシュFRB議長のタカ派姿勢が意識され、ドル高が進行したことから、豪ドル、NZドルともに軟調な展開。対円でも日銀の追加利上げ観測を背景に、豪ドル、NZドルの上値は重かった。

7月のオセアニア通貨は、豪ドル、NZドルともに上値の重い展開を予想する。RBAはインフレ圧力を背景に追加利上げの可能性を維持しており、豪ドルの下値は限定されよう。一方、米国ではFRBのタカ派姿勢がドルを下支えするほか、中国景気の回復ペースも鈍く、オセアニア通貨には買いが入りにくい環境が続くとみられる。対円では日銀の追加利上げ観測も円を支える要因となり、豪ドル円、NZドル円ともに戻りの鈍い展開を見込む。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

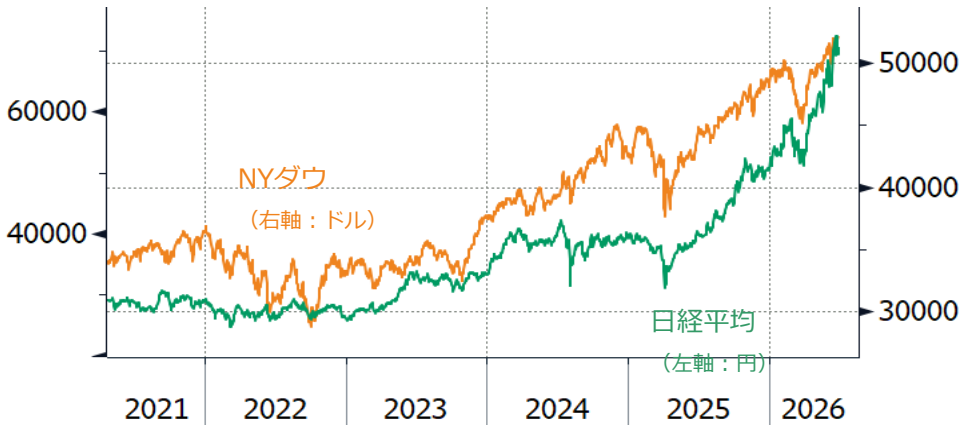
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株式見通し



出所：Bloomberg

日経平均

68,000 – 75,000円

非ハイテク株主導の上昇を展望

ここと、米国でハイテク株高が続いているため、日本株もそれにつられて上昇する場面が多くみられる。WSTS(世界半導体市場統計)の見通しも良好でAIブームの持続に陰りは見えないが、非ハイテク株の割安感が高まっている。中東情勢の悪化も一服しつつあるため、非ハイテク株は後ろ倒しになっていた業績改善が徐々に前倒しとなり、株価の上昇を後押ししよう。日経平均株価は最高値圏で推移する見込みだが、ファンダメンタルズの裏付けがあり、割高感は見受けられない。

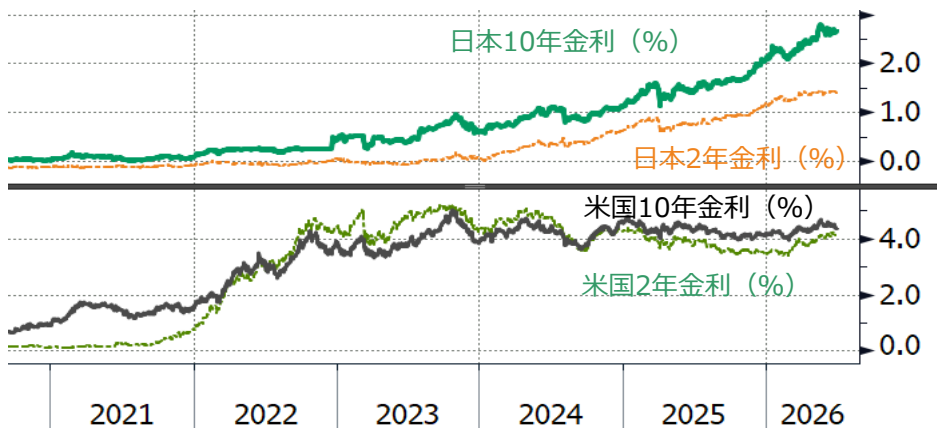
NYダウ

49,000 – 54,000ドル

幅広い業種で上昇が見込める。NYダウは最高値更新へ

一部の空売り投資家が、飛躍した論理によってAIバブルを警告したことを契機にセンチメントが低調となっていたものの、ファンダメンタルズに即した適正な評価が継続していることは好感される。ハイテク株のファンダメンタルズは良好かつ、バリュエーションは低位なため、依然として上昇余地は大きい。加えて、米国経済は循環的回復局面を迎えている。物色の広がりがみられるようであれば、最高値近辺での値固めが期待できる。

長期金利見通し



出所：Bloomberg

日本国債10年

2.40 – 2.90%

財政拡張への警戒感が強まる中で、日銀の利上げ観測もくすぶり、金利は上昇しやすい

日銀は6月の決定会で0.25%の利上げを実施し、政策金利は1%となった。市場では概ね織り込み済みであったことから、6月の10年金利は2.6%台を中心にもみ合う展開となった。7月は財政運営を巡る議論が本格化し、国債増発の規模や発行計画への関心が高まりやすい。財政拡張への警戒は超長期ゾーンを中心に金利上昇圧力となる可能性がある。また、日銀がインフレを警戒し引き締め姿勢を維持する可能性は高く、金利は上昇しやすい展開を予想する。

米国債10年

4.20 – 4.60%

ネルソン・シーゲルモデルによれば、長期金利は変動余地に乏しい

米金利は4.20% – 4.60%程度がファンダメンタルズに基づく理論値である。ネルソン・シーゲルモデルによれば、短期金利は金融政策の見通し次第で大きく変動する余地があるものの、既に高止まりしている長期金利については、変動余地がほとんど残されていない。無論、センチメントによって長期金利が変動する場面も想定されるが、レンジの上限は裁定の機会と捉えるべきであろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

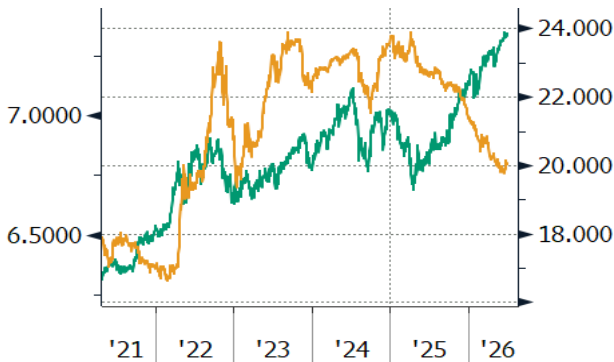
りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

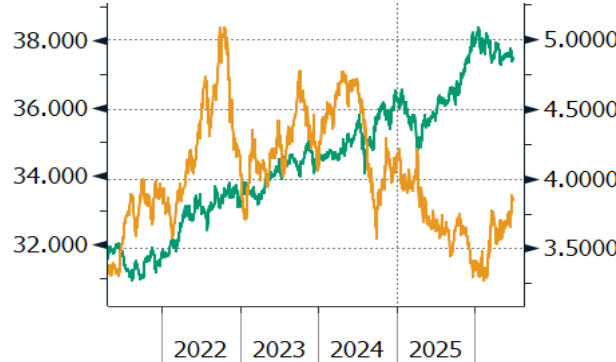
◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		7月の予想		見通し
中国	人民元/円	23.00	~ 25.00	ドル高基調が継続し、対ドルで軟調推移も当局対応から一方向の動きとはならない 6月の人民元は、FOMC後の買戻しの流れから、ドルが主要通貨に対して強含む中で、対ドルで軟調に推移した。一方、対円では底堅く推移した。7月の人民元は対ドルで上値の重い展開を予想。米国経済が底堅く、米利上げ観測がくすぶりやすいことはドルの下支えとなろう。但し、中国人民銀行は基準値設定や国有銀行を通じ過度な元安は抑制する方針。元安が一方向に進行する展開は想定しづらい。対円では緩やかな上昇が見込まれる。
	ドル/人民元	6.75	~ 6.90	
タイ	バーツ/円	4.75	~ 4.95	ドル高基調が継続するなか、観光収入も限定的であり、対ドル・対円で軟調推移 6月のバーツは、FOMC後のドル買戻しの流れから、①ドルが主要通貨に対して強含むこと②タイ中銀が政策金利を据え置いたこと③タイバーツとの連動性が高い金が軟調に推移したことで対ドル、対円で軟調に推移した。7月のバーツ相場は軟調推移が予想される。引き続きドルが主要通貨に対して堅調に推移することが見込まれ、バーツには重石となろう。夏休みシーズン入りで観光収入動向が注目されるが、中国人観光客の回復は爛漫であり、観光収入の改善ペースは緩やかにとどまり、バーツの下支え効果も限定的であろう。
	ドル/バーツ	32.5	~ 34.5	
インド	100ルピア/円	0.89	~ 0.93	インドネシア中銀によるルピア防衛姿勢や高い金利水準からルピアは底堅く推移 6月のルピアは、FOMC後のドル買戻しの流れから対ドルで調整したものの、対円では底堅く推移した。インドネシア中銀が金融政策会合で25bpの利上げを実施したこともあり、他通貨と比較した対ドルの調整幅は限定的であった。7月のルピア相場は底堅い動きを予想する。インドネシア中銀によるルピア防衛姿勢や高い金利水準が下支えとなろう。但し、ドル高基調が継続すると見込まれる中でルピアの上昇余地も限定的となろう。
	ドル/ルピア	17,600	~ 18,400	

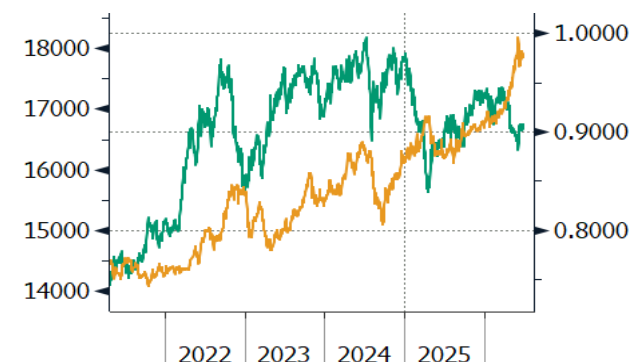
—ドル・人民元 (左軸) —人民元・円 (右軸)



—ドル・バーツ (左軸) —バーツ・円 (右軸)



—ドル・ルピア (左軸) —ルピア・円 (右軸)



出所：Bloomberg

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/6/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2026年				2027年				ポイント				
		7~9月		10~12月		1~3月		4~6月						
ドル円	レンジ	145	~	165	145	~	165	145	~	170	145	~	170	中長期的には構造的に円安が進行しやすい状況が継続する。また、FRBの利上げ観測もあって日米金利差拡大が意識されやすい。
	期末値	155		155		160		160		160		160		
ユーロドル	レンジ	1.10	~	1.22	1.10	~	1.22	1.10	~	1.22	1.10	~	1.22	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受けて25年春より急速にユーロ高となったが、足元ではFRBの利上げ観測などを受けやや軟調に推移。中東情勢が落ち着けば2027年にはECBの利下げ転換が見込まれ、ユーロはしばらく大きな上昇は見込みがたいか。
	期末値	1.15		1.16		1.16		1.16		1.16		1.16		
ユーロ円	レンジ	170	~	190	170	~	190	175	~	195	175	~	195	英国の政局不安、財政懸念から不安定な展開が想定され、対円・対ドルで上値の重い展開を想定。FRBによる利上げ観測によりドルが強含みやすい展開を予想。対円では介入警戒や日銀の利上げ観測が上値を抑えよう。
	期末値	178		180		186		186		186		186		
ポンドドル	レンジ	1.29	~	1.35	1.28	~	1.34	1.28	~	1.34	1.28	~	1.34	当局によるレンジ内で安定を図る運営が続くとみる。足もとでは元高を一定程度容認したように見えるが、当局が重視しているのは相場の安定。一方向の動きではないであろう。輸出や景気への配慮も踏まえると、対ドルでの一方向の元高はなくスピード調整は見られるであろう。
	期末値	1.32		1.31		1.31		1.31		1.31		1.31		
ポンド円	レンジ	202	~	218	200	~	208	200	~	220	200	~	220	豪中銀は追加利上げ姿勢は維持は豪ドル円の下支えとなるが、中国景気減速もあり上値は重いであろう。
	期末値	205		203		210		210		210		210		
ドル人民元	レンジ	6.75	~	6.95	6.75	~	6.95	6.80	~	7.00	6.80	~	7.00	景気の回復力が弱く、金融政策も景気下支えを意識した運営となっているため、対ドルでは上値の重い展開。成長率の鈍さが逆風となりやすい。
	期末値	6.80		6.85		6.90		6.90		6.90		6.90		
人民元円	レンジ	21.0	~	24.5	21.0	~	24.5	22.0	~	25.0	22.0	~	25.0	景気の回復力が弱く、金融政策も景気下支えを意識した運営となっているため、対ドルでは上値の重い展開。成長率の鈍さが逆風となりやすい。
	期末値	22.8		22.6		23.2		23.2		23.2		23.2		
豪ドル円	レンジ	107	~	114	107	~	114	107	~	115	107	~	115	景気の回復力が弱く、金融政策も景気下支えを意識した運営となっているため、対ドルでは上値の重い展開。成長率の鈍さが逆風となりやすい。
	期末値	110		110		112		112		112		112		
タイバーツ円	レンジ	4.60	~	5.00	4.60	~	5.00	4.50	~	4.90	4.50	~	4.90	景気の回復力が弱く、金融政策も景気下支えを意識した運営となっているため、対ドルでは上値の重い展開。成長率の鈍さが逆風となりやすい。
	期末値	4.80		4.80		4.70		4.70		4.70		4.70		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
7/1(水)	4-6月期日銀短観	6月ADP雇用統計 6月ISM製造業景況指数	(中) 6月製造業PMI	7/20(月)	(海の日)		
7/2(木)	10年債入札	5月製造業受注 6月雇用統計		7/21(火)			(独) 7月ZEW景気指数
7/3(金)		(独立記念日)		7/22(水)	40年債入札 6月貿易統計	20年債入札	
7/6(月)		6月ISM非製造業景況指数		7/23(木)			(欧) ECB定例理事会
7/7(火)	30年債入札 5月家計調査 5月毎月勤労統計(速報)	3年債入札 5月貿易収支		7/24(金)	6月消費者物価指数	6月新築住宅販売	(欧) 7月PMI(速報値)
7/8(水)	6月景気ウォッチャー調査	10年債入札 FOMC議事要旨		7/27(月)		2年債入札 5年債入札	(独) 7月IFO企業景況感指数
7/9(木)	5年債入札	30年債入札 6月中古住宅販売	(中) 6月CPI	7/28(火)		7月消費者信頼感指数 7年債入札	
7/10(金)	6月企業物価指数			7/29(水)		FOMC(結果発表)	
7/13(月)				7/30(木)	2年債入札	4-6月期GDP(速報値) 6月個人所得・消費支出	(英) BOE金融政策委員会
7/14(火)	20年債入札	6月CPI		7/31(金)	6月鉱工業生産 6月労働力調査 植田日銀総裁定例会見		(中) 7月PMI
7/15(水)	5月機械受注	6月PPI 7月NY連銀製造業景気指数 米地区連銀経済報告	(中) 4-6月期GDP (中) 6月生産・小売・投資				
7/16(木)		6月小売売上高 7月フィラデルフィア連銀製造業景気指数					
7/17(金)		6月住宅着工・許可件数					

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

2026/6/30

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【6/5～11】

◎ 5月の輸出は19.4%増 ハイテク品好調、対米も急回復

中国税関総署が9日発表した5月の貿易統計(速報値、以下同)によると、貿易の輸出入総額は前年同月比22.6%増の6,481億3,160万米ドルだった。うち輸出額は19.4%の3,767億8,260万米ドルで、輸入額は27.4%の2,713億4,900万米ドルになった。6期連続のプラス成長で、伸び率は4月から5.3ポイント拡大した。ハイテク製品の伸びが全体をけん引きしている。対米輸出は2カ月連続でプラスとなり、35.4%増と急速に回復した。

【6/12～18】

◎ 5月の小売売上高、3年5カ月ぶり減少

中国国家統計局が16日発表した2026年5月の主要経済指標は、小売売上高が前年同月比0.6%減の4兆1,090億元(約97兆4,000億円)に落ち込んだ。小売りが不振だった要因として、前年同期は消費財の買い替え支援策などで市場活性化していたため比較対象の数字が大きかったことを指摘。内需を示す同月指標がマイナスとなるのは、新型コロナウイルスの影響で1.8%減だった22年12月以来。固定資産投資(農村を除く)も2期連続のマイナスとなった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5
実質GDP成長率	%	-	-	4.8	-	-	4.5	-	-	5.0	-	-
消費者物価上昇率	%	0	-0.4	-0.3	0.2	0.7	0.8	0.2	1.3	1	1.2	1.2
都市部調査失業率	%	5.2	5.3	5.2	5.1	5.1	5.1	5.2	5.3	5.4	5.2	5.1
輸出額	10億ドル	321.2	321.3	328.2	304.9	330.0	357.3	356.6	299.8	321.0	359.2	376.8
輸入額	10億ドル	223.8	220.2	239.4	216.8	220.0	244.9	235.4	209.6	270.9	274.5	271.3
経常収支	100万ドル	-	-	491,201	-	-	735,022	-	-	184,300	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,292.2	3,322.2	3,338.7	3,343.3	3,346.4	3,357.9	3,399.1	3,427.8	3,342.1	3,410.6	3,442.2
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.17	7.17	7.13	7.12	7.11	7.04	6.97	6.91	6.90	6.84	6.79

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶” (上海からティータイム)

りそな銀行上海駐在員事務所

○「量」から「質」へ

中国のビール市場では、大手メーカー各社が高級化戦略を進めており、利益率を大幅に改善させています。現地メディアによると、2026年1～3月期の決算では、中国のビール大手7社の内、広州珠江ビール、北京燕京ビール、重慶ビール、青島ビール、恵泉ビールの5社で売上総利益率が前年同期比0.8～4.6%上昇しました。市場の成熟化が進む中、各社は低価格帯から高級路線へのシフトに成功しました。

大手メーカー7社は、1～3月期純利益は合計26億元（約600億円）となり、前年同期比6.1%増加しました。市場の成熟と飽和が進むビール市場は、従来の「量」から「質」への大きな転換期を迎えています。各社の競争は、「規模」から「収益性」と「消費シーンの獲得」へと移行し、高級ビール・クラフトビール・即時販売チャンネルなどが成長を支えています。かつては飲食店向け販売が中心でしたが、近年はスーパーやコンビニ、ECなどの家庭向け販売チャンネルが拡大しています。各社は家飲み需要の定着を背景に、プレミアム商品の投入を強化しています。

2025年の大手企業によるビール生産量は約3,536万キロリットルとなり、前年比1.1%と減少した一方、売上高は約1,800億元（前年比約4%増）、利益は約305億元（前年比18%増）となりました。販売数量が限定的な中でも、品質向上及び商品の差別化によって収益力を高めていることが伺えます。

足元では、夏本番の到来に伴い暑さとワールドカップの開催が相まって、ビール消費の拡大が期待されます。中長期的には、規模の大幅な拡大は見込みにくく、各社による差別化が今後も進むと考えられています。

○発売開始15分で25万枚売上

上海国際映画祭は1993年に第1回が開催されました。第5回（2001年）までは隔年開催でしたが、第6回（2002年）以降からは毎年開催されています。今年の「第28回上海国際映画祭」は6月12日から21日まで開催されました。6月5日にオンラインチケット発売が開始すると、わずか15分で発行枚数は25万枚にも達しました。特に早く完売した作品は、『ローズ（4K修復版）』『デューン 砂の惑星 PART 1・2』『大西洋』です。集計によると、購入者の約80%はリピーターで、新規ユーザーは20%でした。また、来場者の約28%は上海市外から訪れており、映画祭が広域から多くの観客を集めるイベントとなっています。

上海国際映画祭はこれまで一貫して、多様で質の高い映画を上映し、幅広い鑑賞ニーズにこたえる上映プログラムを展開してきました。現在では、海外の新作映画を中国市場へ紹介し、観客に広げたり認知度を高める重要なプラットフォームとしての役割も担っています。今回は市内47館の映画館に加え、長江デルタ地域5都市でも開催され、上映作品数は420本以上、総上映回数は1,500回を超える大規模な映画祭となりました。

第28回上海国際映画祭のポスターは、「光と影、すべてが物語」をテーマに掲げ、「都市と映画との対話」というコンセプトを継承しています。また、プロモーション映像『入場即入戯（足を踏み入れれば、もう物語の中）』は、人々が日常の中に映画を見出し、映画を通じて人生の可能性を感じて欲しいという意味が込められています。

上海国際映画祭は、映画・映像業界の発展への期待感を高め、消費の活性化にも寄与するイベントです。また、中国映画産業の質の向上を後押しするとともに、その高い専門性や国際性、先導性、公共性が高く評価され、中国国内外の映画人が注目する発表の舞台となりつつあります。

2026/6/30

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆2026年4月のタイ経済、前月から減速

- ・タイ中央銀行の報告によると、2026年4月のタイ経済は前月から減速した。中東情勢による影響が主な要因であり、特に民間消費と観光業の低迷が経済全体に影響を与えている。
- ・**製造業**：製造業は前年同月比▲0.4%と前月の+1.3%から減少した。化学製品の生産は減少した一方、AI技術の活用を支える電子機器の輸出拡大が追い風となり、ハードディスクドライブ(HDD)や半導体等の生産は好調だった。
- ・**民間消費**：民間消費は前年同月比+0.8%と前月の+4.5%から落ち込んだ。エネルギー価格の高騰による生活費の上昇や、事前の駆け込み需要の反動が影響し、消費財や燃料等の非耐久財への支出が減少した。また、外国人観光客の減少に伴い、ホテルや飲食店等のサービス業への支出も一段と減少した。
- ・**民間投資**：民間投資は前年同月比+8.6%と前月の+20.7%から大幅に縮小した。コンピューターや電気機器等の機械・設備投資が減少した一方で、コンドミニアムや商業施設等の建設投資は増加が目立った。

◆2026年4月の輸出額、22カ月連続で増加

- ・タイ商務省によると、2026年4月の輸出額は前年同月比+23.1%の約5兆210億円相当となり、22カ月連続でプラスを記録した。特に電子・電気製品の輸出が増加を牽引した。一方で、中東情勢の悪化が長期化する中、サプライチェーン寸断やコスト上昇への懸念が影響し、前倒し発注が進む状況も見られた。品目別では、主要工業製品が+27.5%、農産物・加工品は+5.5%だった。
- ・主要向け市場では、米国+44.2%、日本+23.4%、中国+21.9%、欧州連合+19.2%、インド+4.9%と拡大。3月に大幅な減少した中東向けも+19.3%と再び拡大に転じた。
- ◆**2026年第1四半期のFDI額、デジタル産業が9割**
- ・タイ投資委員会(BOI)の統計によると、2026年第1四半期(1~3月)の外資10%以上の海外投資(FDI)の申請額は前年同期比+272.5%の約4兆7,000億円(427件)となった。
- ・業種別では、データセンター整備等のデジタル産業が申請額の約9割を占め、件数では電気・電子機器分野が最多の77件だった。日本からのFDIは申請額約1,129億6,500万円、件数58件でいずれも3位だった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5
実質GDP成長率	%	-	-	1.2	-	-	2.5	-	-	2.8	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.7	-0.8	-0.7	-0.8	-0.5	-0.3	-0.7	-0.9	-0.1	2.9	2.8
失業率	%	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.9	0.9	-
輸出額	100万ドル	28,581	27,743	30,971	28,836	27,446	28,928	31,573	29,440	35,157	31,583	-
輸入額	100万ドル	28,259	29,708	29,696	32,272	30,172	29,280	34,876	32,273	38,497	41,604	-
経常収支	100万ドル	989	-418	2,174	-1,914	-1,609	3,094	533	2,116	582	-7,590	-
外貨準備高	10億ドル	261.9	267.4	273.3	272.0	274.7	281.9	289.6	293.9	280.5	287.0	287.5
主要政策金利	%	1.75	1.50	1.50	1.50	1.50	1.25	1.25	1.00	1.00	1.00	1.00
対ドル為替レート	パーツ	32.4	32.5	32.0	32.6	32.4	31.5	31.3	31.2	32.3	32.3	32.5

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

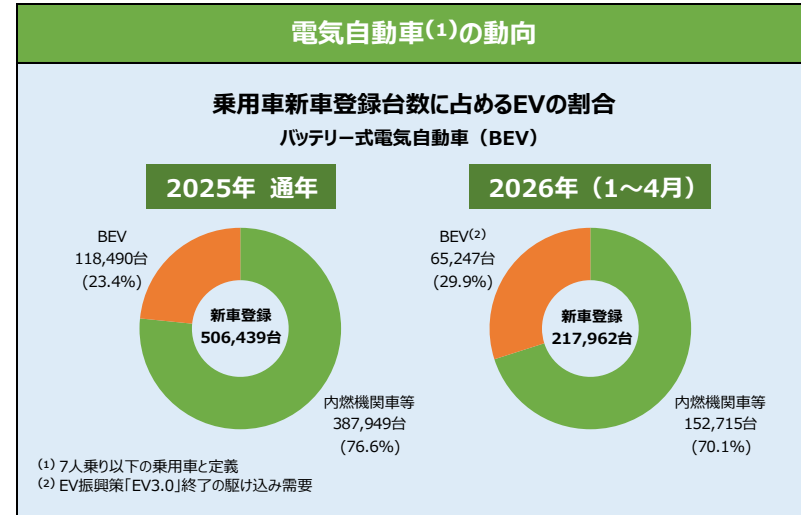
りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

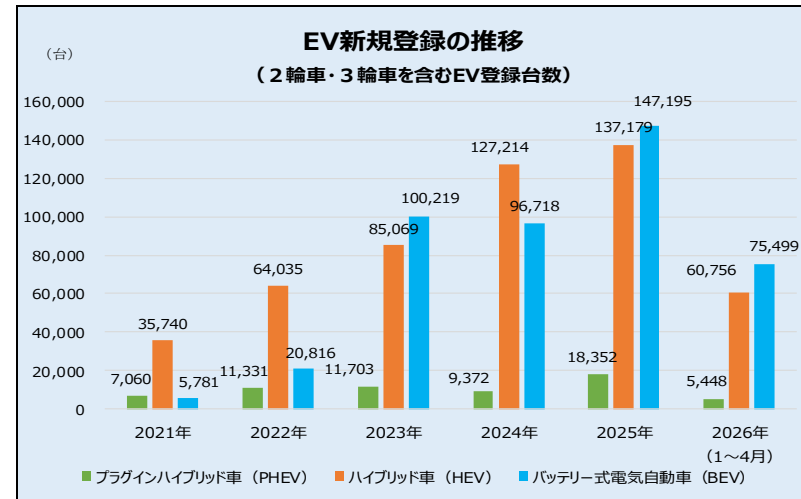
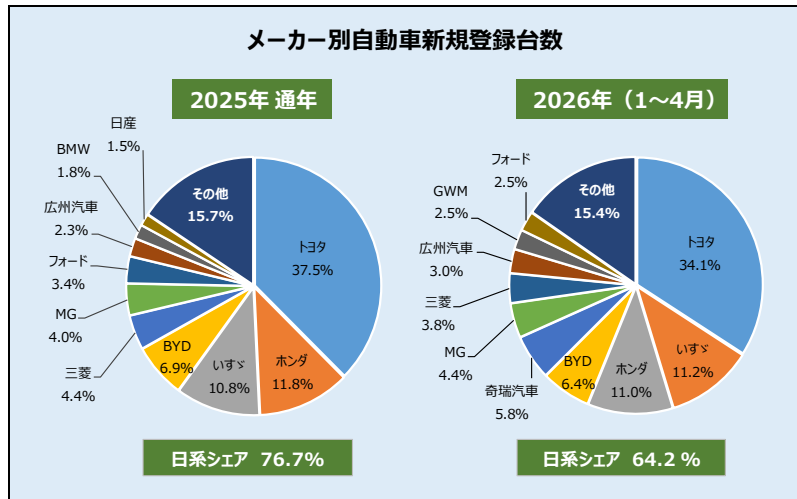
タイにおける自動車産業の動向

生産・国内販売・輸出の動向								
		2023年	2024年	2025年	2026年 (1~4月)	前年同期比 (%)	4月	
【台数】								
四輪	生産台数	乗用車	648,803	558,440	550,456	156,599	98.2	36,650
		商用車	1,192,883	910,557	905,113	316,946	107.1	67,144
		合計	1,841,686	1,468,997	1,455,569	473,545	104.0	103,794
	国内販売台数	乗用車	292,505	224,148	239,236	83,508	109.7	18,233
	商用車	483,275	348,527	381,930	146,929	118.3	30,161	
	合計	775,780	572,675	621,166	230,437	115.0	48,394	
	輸出台数	1,117,539	1,019,213	935,750	280,184	96.5	60,190	
二輪	生産台数	2,120,738	1,887,208	1,972,902	649,233	94.3	146,306	
	国内販売台数	1,856,814	1,683,239	1,711,846	605,601	103.1	136,992	
	輸出台数	822,608	938,762	893,198	320,343	105.6	68,170	
【完成車輸出金額】(百万バツ)								
四輪		719,992	699,163	621,662	189,162	93.8	42,943	
二輪		68,589	63,969	61,596	23,091	105.6	4,858	

出所：タイ工業連盟 (FTI)



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。